

第1回 北広島市長期総合計画審議会 議事録

■日 時 平成21年7月24日(金)18:00~20:25

■会 場 中央会館集会室

■出席委員

村山紀昭会長、麻生昌裕委員、穴田廣光委員、伊藤寛委員、宇田川留美子委員、
内手進委員、鶴木一任委員、遠藤智恵子委員、大川壽雄委員、大木克夫委員、
大谷恵一委員、岡本若子委員、桂裕章委員、菊池重敏委員、小池隆史委員、
齋藤洸委員、三瓶徹委員、杉本修委員、鈴木康熙委員、富田忠行委員、
長井敏行委員、根岸敏子委員、藤野伸之委員、槇武弘委員、森國聡委員、
森永正造委員、吉田俊一委員、吉田正男委員

■欠席委員

岡喜美江委員、川島光行委員

■事務局

上野正三市長、高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、中屋直財政課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

1 開 会

配布資料の確認を行い、「委員の過半数が出席していることから、審議会が成立していること」を確認した。

2 委嘱書の交付

市長から各委員へ委嘱書を交付した。

3 市長あいさつ

【市長】長期総合計画審議会に忙しい中ご出席いただき、また委嘱に関しても快くお引き受けいただきありがたく思う。市長に再任され、また皆様とまちづくりを行っていくことになった。よろしくお願ひしたい。

現在、北広島市は、「21世紀創造プラン」という2010年までの10か年のプランでまちづくりを進めてきているが、この計画が来年度で終わるため、2011年からの新しい計画を策定していくということになる。

日本の社会構造については、知ってのとおり少子高齢化が進んでおり、道内では30%ほど人口が減るのではないかとの試算がされている。北広島市は、まだ当面の

間は6%ほど増えるのでは、と試算されているが、その後には他市町同様に減少していくだろうと予測されている。

とはいえ、北広島市の優位性、特性を活かしながら、市民が住みやすいまちづくりを進めていかなければならない。市民の皆様とともにまちをつくるということが大事だと考えている。あるべき姿を一緒に考えていきたいと思うので、忌憚のないご意見をいただきたい。

4 審議会委員の紹介・事務局の紹介

事務局から、各委員及び事務局を紹介した。

5 会長及び副会長の選出

条例に基づき、会長、副会長を選出した。

選出に当たっては、選出方法について委員から意見をうかがったが、委員の多くが初顔合わせということで選出が難しいため、事務局案があれば掲示してほしいとの意見があり、事務局側から、会長を村山委員に、副会長を長井委員にお願いしたい旨、提案があった。

委員から異議が出なかったことから、会長が村山委員、副会長が長井委員ということでした承された。

6 会長あいさつ

【会長】とても大事な仕事であり務まるかどうか不安はあるが、皆さんの協力を得ながら全うしたいと思う。北広島市に住んで30年になる。昭和45年、広島町のころから総合計画によるまちづくりが始まっていったが、ちょうど自分が引っ越してきたころと重なっている。何もわからないまま移り住んできたが、町役場がどういう考えでまちづくりに取り組んでいるか興味があり、勉強会なども開いたりした。当時は時間に余裕もあり、駅周辺まちづくり計画の際に委員になっていろいろと議論をしたり、駅東口開発のときにも委員になったりと、いろいろな地域の方とお話する機会があって、たいへん勉強になった。

最近の仕事が多忙で、あまりまちづくりに関わっておらず、会長の任が務まるか不安ではあるし、本当ならもっと若い方々が議論する方がいいとも思うが、せっかくなので大いに議論を行い、しっかりとしたものをつくってほしいと思う。

ただ、そうは言っても実際は厳しいと思っている。今の社会情勢の中ではいい話がほとんどない。昔は夢のような話がたくさんあったが、今はそういったものがあまりない。また、社会の変化のスピードが非常に速くなっていて、10年単位の計画がどれだけ有効なのかということもあり、第一印象としては難しいと感じている。

そんな厳しい中でも、今後 10 年間の具体的な計画を立てるのであるから、これからの世代が「いいまちになるかもしれない」と思えるようなプランになるように、なんとかがんばっていきたい。変化の激しい時代だが、着実に夢を持てるような社会になるように、建前ではなく本音で議論を重ねて、大事な意見を事務局に拾ってもらいたい。

時間的制約も多く、ときには長井副会長にお願いしなければいけないことも出てくることもあると思うので、最初に謝罪しておきたいと思う。ぜひ、活発な意見をいただきたいと思う。

7 総合計画策定の諮問

市長から審議会会長に諮問書を交付した。

8 議 事

以降の議事は、村山会長の司会により進行した。

(1) 審議会の公表等について

事務局から、資料に沿って審議会の公表についての説明があり、その後意見等がないか委員に伺った。

会議録に関する各委員への確認の有無について質問があり、事務局が作成し会長に諮った上で公表するという事で、委員から了承を得た。

(2) 審議会の役割と専門部会の設置について

事務局から資料に沿って説明があり、その後意見交換を行った。

専門部会への委員の割り振りについて、村山会長より本来は会長指名であるが、知らない委員が多いことから事務局案に一任したい旨申し出があり、事務局案を委員に配布した。この事務局案に異議がなかったことから、案のとおりそれぞれの部会に選任することが了承された。

この後、各部会に分かれて部会長の選出を行った。各部会により選出された部会長は以下のとおり。

- 環境・福祉部会＝部会長・長井委員、職務代理・三瓶委員
- 教育・地域部会＝部会長・杉本委員、職務代理・吉田正男委員
- 産業・都市部門＝部会長・伊藤委員、職務代理・大木委員

(3) 市の現況と次期計画の基本的方向について

事務局から別紙資料に沿って説明があった後、自由に意見交換を行った。

【会長】 財政の話については、道内他市町村と比較するとどうか。

【事務局】 経常収支比率でみると決していいとは言えない。道内では真ん中くらいの順位である。公債費比率は道内 4 位と良い状況。高齢化比率は現段階ではまだ高くはない。

【会長】 高齢化比率が将来的に一気に上がる予測となっている要因は何か。

【事務局】 同世代の方が多く居住しているため、一斉に高齢者世代になることが要因である。

【委員】 人口構造について、概要の資料を見たが、年代別の細かい数値がないと将来を検討するには少々足りないと思う。推計にあたっての年代の取り方が大まかすぎると思うし、世帯の生活形態などについても検討していかないといけないのではないかな。母子家庭をどうするか、医療体制をどうするか、ということを考える場合は、世帯の細かいデータが必要だと思う。

もう一つ、財政の点については市債の残高が多く、市民一人あたり 35 万円程度の借金になっている。今後、人口が減ってくると、納税も減ってくるだろう。それ以上の額を法人税等でカバーできれば問題ないが、人口の流動性と財政の裏付けがないと、10 年の長期計画を立てても「絵に描いた餅」になってしまうのではないかな。

【会長】 生産年齢人口が幅広すぎるという面もあるとは思う。この辺りについては、産業・都市部会で議論した方がいい部分もあると思う。

【事務局】 昨年度調査の報告書の中に、ある程度細かいデータはあるが、さらに細かい部分については別途準備する必要がある。

【委員】 このデータについては了解したが、こういう情報が一体的に整理されないことには、教育、医療、福祉などについて、将来像を検討することが難しいだろう。

【事務局】 借金が伸びたように見えるグラフになっているが、同時に市民の収入も高齢化するに伴い増えている。年収に対する借金という見方で表現すると、昭和 55 年であれば年収の 1.8 倍の借金だったものが平成 19 年には 2.0 倍くらいに増えてはいるが、年収に見合った借金という考え方ができる。極端に借金が増えたという単純な理解にはならないことをご理解いただきたい。

また、市税の件だが、団塊世代の退職に伴い年収が減少しているのは確かであるが、年収全体では増えていて、何が増えているかというと固定資産税である。これが市民税のマイナスをカバーしている。法人税については、景気の影響を直接受け

るため安定しないものという理解をいただきたい。

【事務局】 公債費残高は全道的にみると財政面では上位にあると言える。

【会長】 財政的な面では、社会情勢に大きく影響されるため、先行きは非常に不透明であることは間違いないが、現状をみればそれほど悪い状況ではないということだろう。以降は、どんなことでもかまわないので、委員から意見をいただきたいと思う。

【委員】 個人的なことではあるが、団塊の世代である夫が退職し、それまで札幌に通っていたのが地域の人になったのだが、何をしようか模索している。そういった人がこの市内にはたくさんいると思うので、このまちを愛し、より生き生きと生活できるよう、活動先をこの会議の中で私が何か考えられればと思っている。また、長男が北広島市に家を建てて住んでいる。市を愛しているなので、まちづくりをがんばっていきたいと思う。

【委員】 農業関係に従事している。北広島市に住んでとてもいいまちだと思っているが、駅を降りると寂しいまちだと思う。降りたまちがもっと楽しいまちであればと思っている、なんとかしたい。

応募したときにも書いたが、よく言われる地産地消のほかに、「地業地商」という言葉を書かせていただいた。ぜひ地元の産業を、そして地元の商業を活性化して、まちを元気にしていければと思う。

財政については、まちの財布も家庭の財布も企業の財布も、大きく見ると「一つの財布」だと思う。家庭の収入が今後 10 年間でどう推移するのか、どういう企業がどう成長し産業構造がどうなるのか、そこから市の財政がどうなるのか、ということ「一つの財布」として考えていければ、いいまちになる気がする。

【委員】 ずっと住んでいるが、まち自体が静かになった。昔はもっと活気があった。まちがにぎやかになれば、自然と人も移り住んできて、商業も活性化する。でも、今はシャッター街になってしまっている。元気のあるまちをつくっていききたい。団塊の世代が歳をとり団地が高齢化していくが、そういった団地の人たちがもっとまちに出て元気に動き回れるようになれば、と思っている。

【委員】 市内には幼稚園が 8 園あり、1,000 人くらいが通っているが、まちの活性化を考えると、小さな子たちが声を上げて遊んでいるなど、若い世代が元気に暮らせる社会になるのがいいと思う。

一貫した教育環境で良い学校があるまちにしていければ、元気に成長できれば、と思う。小さい頃からまちに馴染んだ子どもは、必ず健やかに成長する。まちづく

りは人づくりだと思うので、ぜひ今後の10年を人づくりに重点をおいて取り組んでいただきたいと思います。

【委員】 4人の子どものうち2人は札幌の高校に通っているが、その2人は北広島に帰ってくるとほっとすると言っている。緑があるということは素晴らしいと思う。ただ、いろいろな家庭がいて、お母さん同士で家庭の話ができないのが驚きである。母子家庭が多かったり、問題を抱えている家庭が多く、なんとかならないかと思っている。子育ては家庭もあるが、今のような現状であれば、地域や政治も一緒になって育てていかなければいけないと思う。先生方の教育以外の苦労が非常に多いように感じていて、少人数学級を期待しているが、なかなか難しい現状のようである。学力は二極化している。経済的に余裕があれば高度な教育を受けることができるが、経済的に余裕のない人は望む教育を受けられないという状況もある。なんとかできればと思っている。

【委員】 市は市民協働を進めているが、現実として摩擦が起きている面もある。慎重に進めて行ってほしい。具体的に言うと、住民センターを以前はシルバー人材センターが管理していたが、NPOが管理するようになったことで、高齢者の雇用が奪われてしまった。非常にショックを受けている。あれではいけないと思う。市民協働の進め方について慎重になってほしいという考えを持っている。

【会長】 その点についてはいろいろと議論が必要だろう。NPOを活用することも、ある面では必要、有効なことも多いと思う。前回の計画策定時には、こういう議論はなかったと思う。この数年で多様な活動が生まれてきている。札幌市などは非常に活発に市民活動が行われているようである。今日はNPOの委員の方も出ているが、どう考えるか。

【委員】 たまたまNPOを所属として参加しているが、私がここに参加している理由と、今のNPOの話しというのはつながっているわけではないとは感じている。私は生まれも育ちも北広島だが、この歳になって初めて気づく北広島の姿がある。今回、こういった機会をいただいたので、皆さんの話を聞きながら、まちづくりに関わりたいと考えて参加している。

【委員】 私は環境・福祉の部会だが、人口構造の問題がすべての分野に関連しているので、そこをどう共有し、課題として議論していくかを考えないと、部分的に議論しては一体感のない計画になってしまうのでは、という気がしている。庁舎問題についても市民の目からすると気になるところで、大きな地震が来るともたないと言われている。しっかりと議論していくことが必要だろう。また、計画を立てることも必要だが、立てた計画がどう実施されて、どういう成

果があったか、どんな課題が残ったのか、またそれを職員の方がどう感じているのか、というところをととても知りたい。

まちづくりをやっていく中では、職員の方々が頼りになる部分も多いと思うが、職員の方々がどういう思いで仕事に取り組んでいるのか、ということを知る機会があればと思う。

【会長】 一問一答で全部回答していく時間はないので、いずれはそういった議論をしていければ、と思う。人口構成の問題については、すべての問題の根本に係る問題なので、これについては共通のベースとして考えることになると思うが、「単に困りましたね」では意味がないので、どうしていくべきかを皆さんで議論をしていくことが必要だと思う。

それから、職員の話は行政改革の問題にかかるので、今後議論をしていく必要がある。現行計画の評価については、昨年度報告書にもまとめられている。

【委員】 年齢構成のシミュレーションは大事だと思うが、たとえば産業構造別にどうなのか、地元の企業なのか、それとも本州の企業に採用されているのか、あるいは正職員なのかパートタイムなのか、あるいは年収は年代別にどの程度もらえるのか、など、そういったことがある程度読めるようなデータがあれば、将来計画を立てやすくなる。

【会長】 できるところだけでもデータは整理した方がいいだろう。最低でも、市内企業と市外企業の就業者数の内訳などは出せると思う。大事なところだと思う。

【委員】 年齢構成ごとのシミュレーションが大事。自分が年金をもらうまでにどの程度の年収が想定できるか、といったことをアンケートで回収できれば、シミュレーションがしやすくなるのではないかと思う。

【委員】 平成5年に札幌市から北広島市に移って、緑が多い土地だと感じている。今回、計画の策定にあたって公募委員を募集していたので、是非と思い応募した。考え方はいろいろとあるが、「変わらないでもいい」という考え方もあっていいと思う。交通が多少不便であっても、その分環境が守られていると感じている。

実際に計画をどう進めていけばいいのか、ということはよく見えてない部分もあるが、生活者として目に見えないことに手をつけなければいけないことも多々あると思う。ごみが目に見えないところに捨ててあったり、高齢者が車なしに買い物ができる環境がなかったり、そういうところは改善していかなければいけないと思う。

将来的に循環できるようなまちづくりができるように、いろいろと提案できるようになればいいと思う。

【委員】 連合という立場ではあるが、教育者でもあるので、そちらの視点から発言させてもらう。北広島市内には児童養護施設が2か所あるが、石狩管内では北広島市だけである。そういった苦しい人たちが北広島市にいる。教職員や施設で働いている職員の方だけでそういう人たちを支えていくのは難しい。市全体でというのは難しいかもしれないが、そういう人たちが成長できる社会をつくっていくための人づくりのあり方というの、北広島らしさとしてあるのではないかな。

【会長】 時間もないので、あとは3つの部会長からお話をうかがいたい。

【部会長】 勤務先が北広島市ということで、北広島市で働くようになって15年たった。先ほど変わらないまちというものがあってもよいのではとの話があったが、右肩上がりの社会の中で歩んできた方が多い中で、右肩下がりの社会をどう生きるか、ということを考えるのは大変だが、それを考えていかなければいけない。

他のまちと比べてどうかという評価ではなく、そのまちの個性や「やすらぎ」や「エコ」のように新たな視点からまちをとらえるといったことも考えられる。

いろいろな意見を聞きながら、考えていきたいと思う。

【部会長】 市史をつくる際、過去の計画を読み込んだので、事務局を別にすれば計画について一番勉強していると思うが、正直つまらないと感じている。

計画に対しては懐疑的にみていて、そういう人間が一人くらいいてもいいだろうと思って委員を引き受けた。「思ったことを自由に意見交換する場にしたい」という話しが会長からあったので、前向きに会議に参加できると考えている。

【部会長】 北広島市に住んで33年になる。人口減や高齢化が進んでいるというのは全国的な傾向だとは思いますが、テレビなどをみると出生率が上がっているまちもある。そういった現実をみると、確かに統計データはデータとして受け止めるが、安心・安全なまちをつくり、高齢者になってもこのまちに住みたいと思うような夢のあるまちにしていきたい。

出生率に関しても、このまちで産んで育てたいと思うようなまちづくりをしたい。統計に基づく前提だけでは、希望のあるまちづくりはできないと思う。厳然とある現実を打破するような構想力を持ってあたりたい。

【会長】 3部会長からお話をいただいたが、最後に「話しておけばよかった」と後悔しないように、何か話したいことがある方はどうぞ。

【委員】 医師会をみたときもそうだが、若い人の参加が少ない。育っていないと思う。財政を見ても、使えるお金はほとんどないということを事務局が言っているわけで、良い計画をつくっても予算がないという話しにもつながるのではないかなと思って

いる。

ただ、基本は高齢者に優しい社会になってほしいと思うし、それが次世代に負担のないように、そして次世代にとっても良い高齢者を見て育っていくということができれば、世代間を超えて希望を持って生きていけるのではないかと考えている。

その中の医療部門について、医師会として考えていきたいと思う。

【会長】 高齢者が増えて活気がなくなってきたという課題と、若い世代をどう育てていくか、ということについては、基本的に根は同じだと思う。少なくとも、総合計画である以上、高齢化、福祉の問題に对应していくと同時に、若い人たちが育っていく、希望を持てるように、両輪として考えていかなければならない。

もう一つは活性化しなくてはいけないことと、変えなくてもよいものとしっかりと考えていくべきだろう。昔は、産業振興が大事で大企業が進出してくれば良いといった考えだったかもしれないが、ただ郊外型のショッピングモールなどを誘致すれば良いとは思わない。人工的で巨大なショッピングモールは、寂しい車社会を助長し、まちのにぎわいを消してしまいかねない。そういうものだけではいけないと思う。

とは言え、財政状況は良いわけではなく、国が何かをしてくれるというような状況でもない。そういう状況の中では、夢のような長期総合計画は不要だが、他人任せにするのではなく、まちを元気にするためにそれぞれが知恵を絞りあって考えていく必要がある。速効性のあることはできないかもしれないが、自力でじっくりと着実にまちが元気になる道をみんなで考えていきたい。

(4) 職務代理の指名

会長の指名により、川島委員を職務代理としたい旨提議があり、了承された。

(5) 次回審議会の日程

資料のとおり、平成 21 年 8 月 26 日（水）18 時からということでした承された。

9 閉 会

以上